



から三丁目の区間、旧国道六



竹内 裕 議員

将来を展望した広域的な都市づくり(宍塚・大岩田線について)

一般質問は市長の考えを問うこと。市長の考えを問うことは、市長の考えを問うこと。市長の考えを問うこと。



Tsuchiura City Assembly

号ガード下から市役所下を通って大岩田に行く道路について、ここは車両が走るだけでなく、下高津小学校の通学路であり、近隣の方々が住んでいる生活居住空間でもある。渋滞時は排気ガス、騒音、振動で窓も玄関も開けられない状態であり、交差点には児童の待機場所も無い。この道路について、本市が今まで茨城県に対して取り組んできたことについての報告並びに関係各課の考えを伺う。

したい。教育委員会としても、通路として子どもたちの安心安全の部分最優先にしたい。保護者、学校の方々の要望を取り入れながら、県に要望してまいりたい。

平成十七、十八年度で土浦市総合交通体系調査を策定し、学識者、国はもちろんのこと、県関係の方々がメンバーとなって調査委員を組織し、広く議論を行った。現在計画案がまとまり、この中で宍塚・大岩田線は優先して整備していく路線として位置付けされている。また、平成十二年度から、県議会土木委員会への要望、県南地方総合事務所へ県予算編成等の要望、さらに、本年度においては、国土交通省へ道路財源確保のための道路整備中期計画への位置付け要望を行っている。今後も早期整備に向けた要望活動を粘り強く実施したい。

平成十八年度から新たに自動車騒音常時監視事業を開始し、今までより範囲を広げ、自動車騒音の常時監視を行うとともに、環境基準達成状況の把握を行うなど、より一層の環境保全に取り組んでおり、宍塚・大岩田線も今年度調査対象路線としている。当該地区は住宅が密集した地区であることから、交通渋滞の解消や、低騒音舗装などの環境対策を施し、道路沿線の良好な住環境を確保すべく、県に対し要望してまいりたい。



(掲載以外の質問事項)

- 二 町界町名整理事業の現状について
三 茨城県合併推進審議会の動向と土浦市の合併の考えについて

中川市長においては、平成十五年十一月の市長選挙に当選して以来、安心・安全で、土浦市に住んでみたい、住んで良かったと実感できる日本一住みやすいまちづくりを全力で取り組んでこられた



本橋 道明 議員

市長の今後の市政運営について



宍塚・大岩田線(下高津二丁目地内)

が、これまでの三年七ヶ月を市長自身どのように評価しているのか伺いたい。また、本年十一月に市長は改選期を迎えるが、今後の市政運営についてどのように考えているのか、その決意と抱負を伺いたい。多くの市民の皆様方の負託を受け、七つの基本政策を公約として、行財政改革の推進や中心市街地の活性化など、山積みする課題解決に全力で取り組み、市長としての責務を全うすべく、強い信念を持って確実に実行してきた。しかし、この三年七ヶ月を振り返ると、時の流れは早く、事を成し遂げるためには一期四年はあまりにも短い期間であると改めて感じている。未解決の問題への対応など、幾多のやらねばならないことがあり、議員の皆様方や市民の皆様方のご支援が得られるならば、市長としての重責を真摯に受け止め、現在策定中の第七次総合計画を市政運営の基本方針として引き続き市政を担当し、全身全霊で課題解決に向けて最善の努力を重ねる決意である。



情報モラル教育の本市の取り組みは、どのように考えているか



小林 幸子 議員

【質問】 昨今、ワンクリック詐欺や出会い系サイトによる性犯罪といった問題に巻き込まれる被害者は年々低年齢化しつつある。特に携帯電話のインターネットにおける犯罪発生率は近年顕著なものであり、情報モラル教育が必要不可欠だと思うが、本市でどのような取り組みをしているか伺う。

【教養】 小学校では、子どもたちへの発達段階に合わせ、実際にインターネットを利用し、クイズ形式など児童が親しみやすく理解しやすい教材を使用している。中学校では、特に重視している部分が携帯電話の掲示板などから犯罪に巻き込まれる危険性、架空請求などについての学習となっている。また、外部講師を依頼している学校もあり、具体的な指導を行っているが、学校での指導だけでなく、家庭

の理解と協力が絶対不可欠であることから、保護者への意識啓発、子どもたちへの指導を継続的に行ってまいりたい。

（掲載以外の質問事項）

一 いじめ対策の積極的な推進について
二 協働のまちづくりの一つとして「協働化テスト」「市場化テスト」「政策バンク」等の考えは



霞ヶ浦総合公園周辺の整備構想等について



盛 良雄 議員

【質問】 国民宿舎「水郷」は、昭和四十八年、茨城国体開催時に合わせて竣工しており、築後既に三十四年が経過している。外観は古くなり、障害者用のエレベーターも無く、さらに障害者用のトイレも霞浦の湯の一階にしかない。今後、どのようなテーマを掲げて改修または新築等の構想を持っているか、現在の利用状況の推移と合わせて伺う。

【市長】 平成十八年度の利用状況について、稼働日数は三百六十四日であり、宿泊と休憩、会議等の利用者の合計が十万七千五百六十五人である。前年比千十三人の増となっており、全国の公営宿舎百五十七施設の中で第四十一位となっている。しかしながら施設が大変老朽化しており、平成十三年に実施した耐震診断調査によると、大規模な補強、改築工事が必要との診断結果が出ているため、今後の宿舎の在り方、方向性を検討する経営診断の調査を今年度行う予定である。また、国民宿舎の在り方について検討を行う委員会を十二月頃に設置する予定であり、この委員会において経営診断の結果

を踏まえ、幅広いご意見を頂戴しながら、今後の方針を決定していきたいと考えている。



利用者が増えている国民宿舎「水郷」

二〇二二年、テレビが消える大混乱を避けるため、市長はアナログ放送停波の先延ばし宣言を



柏村 忠志 議員

【質問】 二〇二一年七月二十五日、テレビは地上波デジタル放送に完全移行となる。そのため、デジタル用のテレビを購入するか、アナログテレビに受信装置を付けないと映らなくなる。デジタル放送

の移行によってアナログテレビが大量のごみとなり、不法投棄される可能性もある。市長のアナログ放送停止の先延ばし宣言することの決意を求めらる。

【市長】

本市ではケーブルテレビが普及しており、視聴可能世帯の比率が九十三%、この中で加入率が八十二%である。ケーブルテレビは、地上デジタル放送の完全移行に伴うデジタル放送視聴の有効な方法の一つである。また、今後は低廉な製品や販売の増加も考えられる。不法投棄の関係については、テレビの買い替えではなく、費用負担の少ない既存のテレビを利用したチューナー接続等による視聴も多くなると思われる。高度情報化時代にとってデジタルテレビは、市民はもとより行政にとっても大変有益な情報媒体であることから、国、県の動向や業界の情報等を的確に把握しながら、デジタル化の促進と普及啓発、そしてケーブルテレビのエリア拡大の推進に努めたいと考えている。

（掲載以外の質問事項）
一 なぜ水道料金は下がらな



いのか
三 大岩田地区の「霞ヶ浦多自然型護岸」を親水地域として環境整備を図ること



活字文化振興と図書館について



福田 一夫 議員

質問 新図書館について、昨年度の基本設計に引き続き本年度は実施設計となり、その姿が具体的にようになってきた。学校教育はもとより、生涯学習、社会教育も含め、活字文化の発信拠点とも言うべき図書館について、現行の図書館のサービスを向上させ、新図書館につなげるためにも、現図書館の改善策についての考えを伺う。また、新図書館の

運営形態、蔵書規模、近隣市町村との図書館のネットワーク化について伺う。

教育次長 現行図書館の改善策については、平日の開館時間の延長や、インターネットによる予約システムを導入し、二十四時間の予約受付が可能となったほか、県のネットワークに参加することにより、近隣市町村の図書館とネットワーク化を図っている。また、平成二十二年度開館予定の新図書館については、蔵書収蔵能力は九十万冊であり、開館時には四十万冊規模の蔵書を想定している。格段に大きくなる新図書館の運営体制が課題となっており、自動化書庫や自動貸出機、自動返却装置等の機械化を検討しているが、現在と比較してかなりの人的資源の投入が必要と想定される。そうした中、最近の図書館運営方法として、図書館業務を指定管理者に委託する事例も出ていることから、十分な検討が必要と考えている。

(掲載以外の質問事項)
一 市町村合併について



新図書館が入る土浦駅前北地区市街地再開発事業(完成予想図)



現図書館(文京町)

今泉霊園に出かける運転免許を持たない高齢者のために市のバスが運行できないか



井坂 正典 議員

質問 本市では、今泉霊園の整備や販売組織促進を進めているが、市内在住の高齢者から、一日に何本もないバスで霊園に行き、お墓参りのあと、土浦行きバスを長時間待たされた経験談を聞いた。せめて年一回位は交通手段を持たない方たちのために、市民サービスとして市のバス運行ができないものか伺う。

部長 本市としては、JRバス関東に働きかけ、バス路線の延長と運行時間帯の偏りを一部改善し、利用者の利便性確保を図ったところである。ご質問の、市の公用バス運行については、他の公共施設利用者との公平性に均衡を欠くことから、適当ではないと判断している。そこで、六十五歳以上の高齢者を対象とした予約制により運行されているデマンド型乗合いタクシー土浦を利用していただきたいと



デマンド型乗合いタクシー



市営今泉第二霊園

考えている。
(掲載以外の質問事項)
一 中心市街地活性化の推進に向けて
三 バリアフリー新法制定による基本構想策定に向けて



教職員における労働安全衛生とその課題



川口 玉留 議員

質問 教職員は、子ども、保護者、地域の願いに応えるために日々努力されており、依然として多忙化は解消されず、ゆとりある状況とは言えない。国においては労働安全衛生法が改正されるなど、法的整備も着々と進んでいるが、本市において週四十時間を超える、労働百時間を超える教職員を明らかにし、そして同時に対策はとられているのか伺う。

教務長 このたび、文部科学省の教員勤務実態調査を受け、本市においては昨年十一月に調査を実施した。これによると、小学校の教務主任の時間外勤務が一日約三時間四十分、中学校教務主任が約五時間二十分、教職員は四時間四十分という結果が出ており、小中学校とも厳しい勤務状況である。休日勤務の状況については、小学校で月平均

二、一回、中学校は四、六回、部活動担当者は五、九回となっており、特に中学校の教務主任の多くは週四十時間、月百時間を超える時間外勤務の状況である。このような現状を踏まえ、本市の対策として、各中学校にあっては一週間に一回は部活動の無い日

必ず設け、会議は部活動の無い日に効率的短時間に行うこと。土日のどちらかは部活動の無い日に行うこと、などを行っている。

(掲載以外の質問事項)

二 常磐自動車道における高速バス停留所について

乳幼児医療費無料制度について



久松 猛 議員

質問 乳幼児医療費の無料制度は、市民の強い要望もあり、小学校入学前まで対象が拡大された。しかし、所得制限は依然として従来のままである。無料制度はすべての乳

幼児を対象にすべきであり、所得制限を撤廃すべきと考えるが、見解を伺う。また、無料制度を小学校六年生まで広げる考えはないか伺う。

市長

本市では、乳幼児の対象年齢拡大の必要性を考え、平成十六年度には県内他

市町村に先駆けて小学校入学前までの対象年齢の拡大に取り組み、単独事業による医療福祉制度の充実に努めてきた。今後も子育て支援の観点から、現在、助成制度の整備拡充について検討しているところである。また、仮に本市において所得制限を撤廃した場合には四千八百万円、さらに小学校六年生まで全額助成した場合、二億二千万円と大きな財政負担が必要となる。この医療福祉制度は、県と市町村が一体となって取り組む事業であることから、所得制限の緩和、対象年齢の拡大などを県に対して毎年要望している。

(掲載以外の質問事項)

一 平成十八年度以降の一連の住民税増税による影響について
三 要介護認定者の障害者控除について

四 国保行政について
五 妊婦健康診査の公費負担について



命をつなぐ安心安全な農業について



吉田千鶴子 議員

質問 本市の農家数は三十年前と比べて四十三%も減少し、農業を取り巻く環境は厳しい状況にある。農業の担い手に対する農業改革関連三法等の支援策が施行されているが、高齢化が進展する中で、地域の中心となって農業経営を行っていく担い手の育成について、本市の取り組みを伺う。

産業部長

本市の状況は、兼業化や担い手の減少と高齢化などにより、作付けされない農地が増加している。地域農業を維持していくためには農業生産の中心となる担い手農家の育成が急務となり、国において意欲ある農業者を認定する認定農業者が制度化された。本市では平成十七年度末で百六十九名となっている。

この制度は、農地集積による規模拡大を進めることで、経営耕地面積の減少や遊休農地の防止にもなることから、今後も認定農業者を増やし、関係機関、JA土浦等と十分に連携しながら、地域農業の振興と、農業を守っていききたいと考えている。





体育施設整備について



松本 茂男 議員

質問

佐野子の市民運動広場について、数日前に降った雨でも使用出来なくなることから、今後の排水対策について伺う。また、かつての東部地区市民運動広場においては、再度開放について土地所有者と交渉すべきと思われるが、考えを伺う。また、木田余地区市民運動広場について、地元父兄から照明を付けたい旨の要望が出ているが、今後の対応について伺う。

教育次長

佐野子市民運動広場は、もともと湿地帯で水はけの悪い地形であったことから、平成四年、平成十年に水はけ改善の透水管敷設工事を行った。今後は土の入れ替えや土盛り、排水溝清掃等の整備を考えている。また、東部地区市民運動広場については、土地所有者に対して借用可能か早急に交渉いたしたい。木田余地区市民運動広場



東部地区市民運動広場(おおつ野四丁目地内)

窓口対応の現状と課題



中田 正広 議員

質問

窓口における市職員の対応について、どのように評価しているか。また、理想とする窓口対応とはどのようなものか。今後、至らない点、課題等があった場合、どのような研修プログラムを考えているかを伺う。

市長

平成十五年十月に総合窓口を開設し、担当業務を集約して利便性の向上に努めてきた。さらに、申請書類の記載方法等についてアドバイザーを行うなどサービス向上に取り組んでおり、職員は、市民の期待に応えるべく、精一杯努力していると認識しているが、十分とは言えない面もあると思われる。窓口対応においては、職員の資質向上が最も重要な課題と考えており、新任職員研修や階層別研修、職場内研修等を通じて接遇手法の習得に取り組んでいるほか、専門教養研修におい

て、いわゆる市民満足度向上研修を実施し、より高度な窓口対応技術の習得に努めている。

(掲載以外の質問事項)

- 二 住環境の改善を求める質問
- 三 土浦市の医療の現状について



市役所総合窓口

市議会の模様は、土浦ケーブルテレビで議会初日翌週の月曜日から、午後10時～11時まで順次録画放送予定です。

議会を傍聴してみませんか



詳しくは、議会事務局へ

インターネットの場合は、「土浦市議会事務局」と入力して検索してください。「土浦市議会ホームページ」→「傍聴」で詳しくお知らせしております。

電話 029(826)1111 内線 2277 FAX 029(826)3379

手話通訳者について

耳の不自由な方が本会議の傍聴を希望される場合には、手話通訳者の派遣を依頼いたします。

ご利用の際には、少なくとも一週間前までに議会事務局へお申し込みください。



つくば市との合併について



古沢 喜幸 議員

質問 土浦市は、県南の商都としての歴史があり、財政は豊かな方で、借金も急激に減少している。もし、つくば市と合併すれば、土浦市民の税金が土浦市民に還元されない、そういう事態が容易に想像されることから、つくば市に身売りするようなことは絶対にあつてはならないと思うが、市長の考えを伺いたい。

市長

広域交通網の整備による生活圏の拡大や、ライフスタイルの変化など、住民ニーズの多様化に対応できる広域的な都市づくりは必要であり、快適でゆとりある都市づくりを推進するためには、つくば市や隣接する市町村による枠組みでの合併の検討が必要と考えている。具体的には、議員の皆様のご意見を拝聴するとともに、市民一人一人のご理解と機運の盛り上がりを見極め、近接市町村の意

向を尊重しながら、真摯な気持ちで取り組みたい。また、合併を含めた広域的な視野を堅持しつつ、将来にわたって南地域をリードし続けることが出来るよう、まずは本市の着実な発展に努めてまいりたい。

(掲載以外の質問事項) 二 元気な高齢者と中心市街地の活性化を 三 水道事業事務監査の結果について

土浦市観光基本計画について



荒井 武 議員

質問

国際観光振興機構の発表によると、二〇〇六年に日本を訪れた外国人は七百万人を突破したとの報道であった。旅行消費は、小売業、広告業、建設業、製造業など幅広い分野に大きな波及効果をもたらすという特徴があり、まさに観光は二十一世紀の主力産業の一つにふさわしい経済効果を持っている。本市における土浦市観光基本計画について、今後設置される審議

会の概要と考え方について伺う。

産業部長は、学識経験者や観光事業者、議会代表、県、市関係者、また公募の市民の皆様により、仮称「土浦市観光基本計画策定委員会」を設置し、幅広いご意見をいただきながら検討を進めてまいりたい。したがって、この策定委員会での検討内容の結果を踏まえながら、国・県の観光に関する計画や、第七次総合計画との整合性に留意し、実効性のある基本計画を策定したいと考えている。より魅力にあふれ、個性に富んだ観光振興を図るため、観光協会や事業者、関係団体等と一体となり、住民・訪れる人それぞれに魅力ある土浦を大いにアピールしてまいりたい。

(掲載以外の質問事項)

- 二 安心安全のまちづくり対策 三 土浦市ふれあいネットワークプラン



観光帆艀船「七福神丸」

定例会の詳細につきましては下記施設にあります会議録を御覧ください。なお、平成19年第2回定例会の会議録につきましては、9月上旬頃閲覧可能となる予定です。

Table with 4 columns: Branch, District, City, and Building Name. Includes entries like 支張民, 支張民, 支張民, etc.

議案質疑発言議員

議案質疑とは、提案された議案に対して、詳しく知りたい点などを執行部に聞くことです。(質問掲載)

【柏村志志議員】

一 今泉霊園用地取得金額とその回収の見通しについて

議会報編集委員会

- 委員長 吉田博史
副委員長 竹内裕
委員 盛内良雄
委員 福田一夫
委員 川口玉留